

伊万里 市議会だより



第71号

11月

令和元年
(2019年)

玄海国定公園「竹の古場公園」展望台から

一般会計

9月補正額：7億3437万円

予算総額：269億9638万円

(対前年同期：+1.0%)

8月の豪雨災害で被災された方々に
心よりお見舞いを申し上げます。

9月議会に上程された議案は
全会一致で可決しました。

市議会のホームページは「伊万里市
議会」で検索、または右のQRコード
からご覧ください。



令和元年伊万里市議会第3回定例会 会期日程

9月

開議時刻 午前10時

日	種別	内容
2(月)	本会議	開会 会議録署名議員の指名 会期の決定 市長提出議案等 25件……一括上程 市長提出議案等の提案理由説明
4(水)	本会議	議案等に対する質疑
5(木)	本会議	議案等に対する質疑 決議案の上程(決算審査特別委員会設置) 決議案の提案理由説明 決議案に対する質疑 決議案の討論及び採決 特別委員会委員の選任 特別委員会正副委員長の互選 議案の常任委員会及び特別委員会付託
6(金)	休会	特別委員会(公共施設最適化調査)
9(月)	休会	特別委員会(まちづくり・観光振興)
10(火)	本会議	一般市政に対する質問
11(水)	本会議	一般市政に対する質問
12(木)	本会議	一般市政に対する質問 市長提出追加議案 3件……一括上程 市長提出追加議案の提案理由説明 市長提出追加議案に対する質疑 追加議案の常任委員会付託
13(金)	休会	常任委員会
17(火)	休会	常任委員会
19(木)	休会	正副委員長会
20(金)	本会議	会期延長 市長提出追加議案等9件及び意見書案2件 ……一括上程 市長提出追加議案等の提案理由説明 市長提出追加議案等に対する質疑 市長提出追加議案の特別委員会付託 意見書案の提案理由説明 意見書案に対する質疑 常任委員会報告 常任委員会報告に対する質疑 特別委員会中間報告 特別委員会中間報告に対する質疑 議案等の付議順序により討論及び採決

※会期を延長し、9/25から決算特別委員会が実施されました。
報告につきましては次号に掲載させていただきます。

8月豪雨災害時の市議会の対応

令和元年8月28日5時50分に市災害対策本部は設置されたことに伴い、伊万里市議会災害対応会議が設置され、8時35分に議長、副議長、議会運営委員会委員長、常任委員会正副委員長が出席。

市災害対策本部から被害状況等の報告を受け、当日に予定されていた議案説明会の延期を決定しました。

※平成31年4月1日より「伊万里市議会における災害発生時の対応要領」、「大規模災害発生時の伊万里市議会議員の行動マニュアル」が施行されたことによるものです。

意見書

- ・教職員定数の改善及び義務教育費国庫負担制度拡充を求める意見書(可決)
- ・地方財政の充実・強化を求める意見書(可決)

人権擁護委員候補者の推薦

- * 小野 龍太さん (大川内町)
- * 梶原 敏雄さん (黒川町)
- * 福地 佳野さん (波多津町)
- * 松尾 ふき子さん (松浦町)
- * 高木 和之さん (山代町)

伊万里市選挙管理委員及び補充員の選挙結果

【委員】

- * 岩永 孝雄さん (南波多町)
- * 田中 恒範さん (波多津町)
- * 永尾 章さん (山代町)
- * 青木 龍子さん (立花町)

【補充員】

- * 有尾 廣さん (東山代町)
- * 岩下 勝實さん (黒川町)
- * 大崎 正之さん (松浦町)
- * 市川 哲也さん (大川内町)

※前号に掲載ができませんでしたので
今回、掲載します。

年賀状について

公職選挙法の規定により、議員は年賀状、暑中見舞いなど時候のあいさつについて、いただいたものへの返礼で、かつ裏表とも自筆のもの以外は禁止されております。

ご理解をお願い申し上げます。

議員一同

総務委員会

★所管 総務部、政策経営部、市民部(戸籍・住民登録等)、出納室、選挙管理委員会、監査委員、他の委員会に属しない事項

当委員会に付託されました条例議案4件、一般議案1件、補正予算議案1件について審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定しました。主な内容は下記のとおりです。

【条例議案】

■会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例制定について

地方行政の重要な担い手である臨時・非常勤職員は任用制度が不明確であり、地方公共団体によって任用・勤務条件に関する取り扱いが様々でした。令和2年4月に新地方公務員法の施行、会計年度任用職員制度の創設により、新たに条例を制定するものです。

委員から、現在の臨時・嘱託職員に対する雇用条件等の説明や周知について質疑があり、「10月下旬に説明を予定しており、周知を図っていきます」との回答がありました。また、待遇や手当等についての質疑では、「現在、初任給や前歴換算などの制度設計をしています」と回答がありました。

総務委員会として「会計年度任用職員制度における給与等の支給に関する規則については、地方公務員法及び地方自治法の改正趣旨に鑑み、十分な対応、措置を講じた内容とすること」という意見を付しました。

■地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例制定について

会計年度任用職員制度の施行に伴い、勤務条件等に関する規定を追加するなど、関係する9条例を整備するものです。

■市職員の分限に関する条例等の一部を改正する条例制定について

地方公務員法の改正に伴い、成年被後見人及び被保佐人であることを理由とした欠格事項その他の権利の制限に係る措置の適正化を図るなど、関係する5条例を改正するものです。

【予算議案】

■伊万里市一般会計補正予算(第2号)

総務費

○移住・定住促進事業(移住支援金) 204万円
東京圏からのUIターンによる移住促進のため、都道府県が運営するマッチングサイトに掲載された求人情報により企業に就業し、又は起業した移住者に対し、移住支援金を交付するものです。

・事業費 …… 移住支援金 100万円×2世帯
事務費 4万円(支援金の2%)

・負担割合 県75%(国50%、県25%)市25%

○市民活動促進事業(さが未来アシスト事業費補助金) …………… 357万2千円

自然、人などの地域資源を活かした自発の地域づくりに関する取り組みに対し、補助金を交付するものです。

・事業主体…黒川町まちづくり運営協議会、古伊万里通りおひなさま実行委員会、波多津町浦区、松浦町岳坂区、川内野コメCOME倶楽部、南波多フットパス研究会

・事業費 447万6千円

・負担割合 県 45%、市45%、地元10%

8月の豪雨災害報告(防災危機管理課から)



市道宿分・中通線(松浦町)

雨量(8月26日～30日の5日で422mm)、避難所ごとの避難者数、食料配布数、被害の内容および市の対応状況などが報告されました。

○被害の内容(9月6日現在)

・人的被害 死者なし・家屋損壊 なし
・床上浸水 4戸(うち非住家2戸)
・床下浸水 28戸(うち非住家5戸)
・その他の被害 道路25か所、河川38か所、農地53か所、農用施設57か所、林道3か所
※避難情報は、防災行政無線、緊急速報メール、防災ネットあんあん、ケーブルテレビ、市ホームページ、テレビ、ラジオ、FAX、電話などで発信されました。

◎中山 光義 ○岩崎 義弥
馬場 繁 加藤奈津実 川田 耕一
前田 久年 盛 泰子

文教厚生委員会

★所管 市民部(保健・福祉・環境・人権同和)、
教育委員会

当委員会に付託された条例議案3件、一般議案4件、補正予算議案4件について審査の結果、原案のとおり全会一致で可決すべきものと決定いたしました。主な内容は下記のとおりです。

【条例議案】

■伊万里市立保育園条例及び伊万里市立幼稚園条例の一部を改正する条例制定について

子ども・子育て支援法等の改正による幼児教育・保育の無償化に伴い、市立保育園及び市立幼稚園の保育料に関する規定を改正するものです。

【一般議案】

■工事請負契約の締結について

- 伊万里中学校校舎建築工事
(黒木・川原・古賀建設共同企業体)
…………… 16億8,300万円
- 伊万里中学校校舎電気設備工事
(堤電気・昭栄電設建設共同企業体)
…………… 1億9,580万円
- 伊万里中学校校舎機械設備工事
(相生・川井産業建設共同企業体)
…………… 2億3,320万円

【予算議案】

■伊万里市一般会計補正予算(第2号)

民生費

- 地域医療介護総合確保事業
…………… 1,461万1千円
地域密着型サービス施設を開設する事業者に対し、施設整備及び開設準備に要する経費を補助するものです。 県10/10
- 児童福祉総務事業(公立保育園等施設整備検討委員会) …… 18万3千円
老朽化が著しい公立保育園等施設の効率的な整備方法を審議するため、委員会を設置し、整備基本計画を策定するものです。
- 私立保育園整備促進事業… 1,421万4千円
私立保育園に対し、園舎の改修に要する経費を補助するものです。今回は立花保育園及び大里保育園のトイレ改修と増築となっています。
負担割合 国1/2 市1/4 事業主体1/4

教育費

- 体育施設管理運営事業((国見台体育施設改修費用対効果分析業務委託料)
…………… 436万7千円
令和5年度に開催される国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会佐賀大会に向けて、国見台体育施設を改修するに当たり、その財源となる国の社会資本整備総合交付金の申請時に必要な「費用対効果」を分析するものです。

民生費・教育費

- 大坪保育園・公民館複合施設整備事業
…………… 2,042万6千円
国の公共施設等適正管理推進事業債を活用して、大坪保育園・公民館複合施設を計画し、平成30年度に完了した基本設計に基づき、実施設計及び地質調査を行うものです。この事業は令和3年度までに旧施設の解体、整地まで終了しなければなりません。

■伊万里市介護保険特別会計補正予算(第2号)

- …………… 1億6,626万6千円
平成30年度決算に伴う補正を行うとともに、高額医療合算介護サービス給付費負担金を増額するものです。

■伊万里市後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号) …… 310万6千円

- 平成30年度決算に伴う補正を行うとともに、健康診査業務委託料を増額するものです。

【現地視察】

■大坪保育園・公民館複合施設予定地

大坪公民館を使用しながら、グランドゴルフ場に複合施設を建設します。基本計画の説明を受けたあと、建物の配置や進入口などを確認しました。



- ◎井手 勲 ○前田 邦幸
西田晃一郎 力武 勝範 前田 敏彦
山口 恭寿 樋渡 雅純

産業建設委員会

★所管 産業部、建設部、上下水道部

当委員会に付託されました条例議案1件、補正予算議案2件について審査の結果、原案のとおり可決すべきものと決定いたしました。主な内容は下記のとおりです。

【条例議案】

伊万里市水道料金、負担金及び手数料条例の一部を改正する条例について

今回の条例改正は、水道法の改正に伴い、給水装置工事事業者の指定の更新に対して、審査に係る手数料を徴収するため、改正するものです。

【予算議案】

■伊万里市一般会計補正予算(第2号)

労働費

□ふるさと伊万里就業奨励事業

若年層の市外からの転入を促進し、あわせて市内中小企業等の人材確保を図る就業奨励金について、対象者を5名と見込んでいたが、対象者が見込みよりも多くなったため予算が不足する7人分を増額する。

・就業奨励金
(年間見込) (既決) (補正額)
240万円 - 100万円 = 140万円

・対象者数 年間12人(既決5人+補正7人)

農林水産業費

○人・農地プラン推進事業

平成24年に11地区(当時の農協支所単位)で策定された「人・農地プラン」を集落単位に細分化し、各集落での話し合いに基づいて、地域農業の担い手確保等の将来方針を掲げた新たなプランを策定するため、将来の営農意向等に関するアンケート調査や、農地利用の現状の地図化等を行うものです。

・プラン策定予定数 …………… 145集落
・アンケート調査に要する経費 … 54万7千円
・地図作製に要する経費 …………… 61万3千円
・事業費 …………… 116万円

○ため池整備促進事業

ため池が地震で決壊した場合の浸水範囲及び避難経路等を網羅した「ため池ハザードマッ

プ」9か所の作成を予定していたが、国の予算の追加配分に伴い、作成箇所を新たに9か所追加するものです。

・作成業務委託料
(年度見込み) (既決) (補正額)
4,476万6千円-2,226万6千円=2,250万円

・実施箇所 18か所(既決9か所+補正9か所)

・負担割合 県10/10

商工費

○観光PR事業

観光振興などを目的とした包括連携協力協定を締結している日本航空(株)と連携して展開する、タイへの農産物輸出事業の中の伊万里フェアに合わせ、12月中旬(予定)にバンコクにおいて、本市の物産・観光の知名度を向上させ、誘客促進を図るためのPR活動を実施するためのものです。

・事業費 …………… 41万円

土木費

○道路管理事業

身近な生活道路である市道について、歩行者や車両が安全に通行できるよう、側溝整備、舗装、路肩等の維持補修するものです。

・事業費 …………… 2,400万円

○交通安全施設整備事業

防護柵・区画線及び反射鏡など交通安全施設を整備するものです。

・事業費 …………… 300万円

○空家等管理促進事業

個人が特定空家を除去する費用の一部を補助する特定空家等除却事業費補助金については、1件と見込んでいたが、2件目の補助金申請があったため、不足分を増額するものです。

・事業費 …………… 43万2千円

■伊万里市市営駐車場特別会計補正予算(第1号)

平成30年度決算に伴い補正するものです。

(意見)

○市道側溝の排水機能が豪雨時においても発揮できるように日頃の管理を徹底すること。

◎松永 孝三 ○山口 常人
坂本 繁憲 梶山 太 松尾 雅宏
渡邊 英洋 笠原 義久

公共施設最適化調査特別委員会

特別委員会報告

6月定例会において、人口減少や少子高齢化の本格的な到来を見据えて、行財政分析も踏まえ、★ファシリティマネジメントについて調査・提言を行う特別委員会として設置されました。

○伊万里市公共施設等総合管理計画の概要

本市所有の公共施設については、建築から30年以上が経過した建築物が多く現存し、その多くが改修時期を迎えています。今後、人口減少とともに税収の減少も見込まれ、厳しい財政状況となる中、これまで同様の規模で維持することができない状況が見込まれることから、総合的かつ計画的な管理に取り組むため、長期的な視点で公共施設の有り方に関する基本的な方向性が定められています。

○公共施設等管理システムの導入

市所有の公共建築物の基礎情報、建物情報等に関するデータを一元管理・共有化し、施設

の状況把握と運営の効率化を図るもので、個々の施設ごとのカルテの作成や建物の将来の更新費用の試算などができるものとなっています。システム導入により全職員が全ての資産状況を見ることができるようになります。

○伊万里市立学校規模適正化協議会について

今年度から2年間かけて、教育委員会から伊万里市立学校規模適正化協議会へ諮問された「国見中学校、滝野中学校を統合する」、「今後の伊万里市立学校の在り方について」、協議会を開催され、地域での協議結果も考慮しながら、協議、答申をされる予定となっています。

○学校施設の現状

学校施設の耐震化については、東山代小学校と伊万里中学校が一部対応できていない状況だが、伊万里中学校は本年度から改築、改修工事が始まる予定となっています。

視察報告(8月19日～21日)

○大分県佐伯市

平成17年に合併され、旧市町村時代の同種・同機能の施設が多く存在している状況であり、その施設の老朽化に伴う更新費用が大きな負担となることが予測されることから、平成28年に公共施設等総合管理計画を策定し、平成30年に個別施設計画を策定され、適正配置に向けた取り組みをされています。市内の連携体制推進については、「公共施設マネジメント通信」の発行をするなど職員への意識啓発にも取り組まれています。

○鹿児島県出水市

平成25年から公共施設マネジメント事業に取り組まれ、平成26年から3年間で「公共施設白書」「公共施設適正配置計画」「公共施設等保全計画」を策定、これら3つの計画をもって「公共施設等総合管理計画」とされています。施設等の情報管理については、自前で出力するシステムを構築、エクセルやグーグルマップなどを利用して管理、運営をされている。学校関係施設については、小規模校を生かす取り組みをされており、複合化、共有化の方針を定められています。

○熊本県山鹿市

児童生徒数の減少により小規模校が増加、老朽化に伴う耐震化対策も必要になる中、「市立小・中学校規模適正化基本計画」を策定。原則、1中学校区・1小学校の枠組みを考慮し、当初20校あった小学校を最終的に8校、中学校においても6校から5校に統廃合が行われる計画です。地元への説明会では反対意見もあるが、粘り強く説明し、住民の理解を得る努力をされています。



山鹿市立山鹿小学校

(意見)

公共施設マネジメントについては、関係部署と連携し、全庁的な共通認識のもと効果的な取り組みを推進できるよう職員の意識啓発に努めること。

◎樋渡 雅純 ○川田 耕一
西田晃一郎 山口 常人 中山 光義
井手 勲

まちづくり・観光振興特別委員会

1. まちづくりの取り組みについて

各地区・町において、進捗する人口減少や少子高齢化等に伴い、地域づくりを取り巻く環境が変化しています。このような中、「住み慣れた地域で将来にわたって元気に安心して暮らせるまち」を目指し、自助・互助による課題の解決やまちづくりへの取組み活動を促進するため、住民主体の座談会を開催し、今後の地域づくりの在り方、取組み方策(将来ビジョン)について検討が行われています。

2. 観光の取り組みについて

(1) 伊万里ブランド販売促進事業

福岡、北九州及び横浜のホテルで伊万里産食材を中心とした料理を伊万里焼の器で提供する伊万里フェアが開催されました。提供された食材のなかには、このフェアを契機としての常時取引に繋がったものもある。また、大川内山で開催される風鈴まつりの時期にあわせて市内外の17か所で計738個の伊万里焼風鈴の展示が行われ、本市への誘客促進が図られています。このほか、福岡空港国内線の売店「JALUX」に伊万里コーナーが常設され、現在9事業者の31商品が販売されています。

(2) 観光振興団体支援事業

本市とJALは平成29年に観光振興や人材育成を目的に包括連携協力協定を結び、その後、連携して様々な事業に取り組んでいる。7月には福岡空港のビルで福岡市内の子供を対象に伊万里焼伝統工芸士による伊万里焼絵付け・ろくろ体験が行われ大変好評でした。

また、佐賀県が舞台の人気テレビアニメにも登場している市内の飲食店に市物産振興協議会が作成した市内観光地の案内看板を設置するなど様々な所で誘客が図られています。

(3) 祭り開催支援事業

8月4日に開催されたどっちゃん祭りには約3万人の人出があった。

10月26、27日にはいまり秋祭りが開催され、11月16日にはCygames(サイゲームス)presents伊万里湾大花火が今年も開催され

る。現在、同時に開催されるイベントの内容について企画中であり、市内事業者の出店ブースについても検討されている。



(4) 市内周遊観光券発行支援事業

観光客に市内周遊観光券を利用していただくことで、滞在時間を延ばすとともにリピーターの獲得が図られている。前年度の実績は利用冊数711冊、利用額224万3千円だったが、昨年度は8月から12月であった利用期間が今年度は7月から翌年の2月までに拡大され、今年度は7月だけで利用冊数324冊、利用額75万3千円の実績が上がっている。

(質疑)

質問: 宿泊施設や団体客の食事場所など、今後の観光客の受け入れ体制についてはどのように考えているか。

回答: 市内には現在大小7つの宿泊施設があり、さらに民間の宿泊施設が2つ建設中である。近年は、これまでの団体での物見遊山のような観光から、個人での質を求める観光に変わってきているため、今後は受け入れ体制に軸足を置き、市だけではなく関係機関と連携して取り組む方向で考えている。

(意見)

地域によって地域づくり座談会の運営方法や進捗状況が異なるため、取組みに大きな差異が生じないように情報共有を図ること。

◎松尾 雅宏 ○加藤奈津実
松永 孝三 前田 久年 笠原 義久
渡邊 英洋

一 般 質 問 (質問順)

議員名	質問事項
山口 常人	1.交通渋滞の現状について 2.伊万里川河口の環境整備について 3.汚水処理の現状と整備方針について 4.学校教育の方向性について
笠原 義久	1.市内自治区の見直し、統合問題について 2.観光行政の現状と将来への考え方について 3.浦ノ崎廃棄物処理場の今後について
松尾 雅宏	1.道の駅について 2.農業関係について (1)有害鳥獣対策 (2)さが園芸農業者育成対策事業 3.懲戒審査委員会について 4.市民会館について
西田晃一郎	1.伊万里市地域包括支援センターの移設について (1)背景と目的 (2)予算 (3)今後の体制
川田 耕一	1.高齢化社会における認知症施策について (1)新オレンジプラン (2)認知症施策推進大綱 2.高齢者の交通事故防止について
加藤奈津実	1.保育料無償化について (1)保育事業者の声 (2)副食費の徴収について 2.伊万里市の歌について (1)市として制作に関わった伊万里の歌 (2)伊万里讃歌の活用
前田 敏彦	1.松浦鉄道について (1)施設整備補助金について (2)利用促進について (3)施設整備について (4)今後について 2.河川の管理について (1)8月豪雨に伴う被害状況について (2)河川の管理状況について (3)今後の対応について
松永 孝三	1.地方公共団体における内部統制について 2.地方公会計制度について 3.超スマート社会に向けた取り組みについて
力武 勝範	1.会計年度任用職員制度について (1)規則の制定 (2)フルタイムとパートタイム (3)社会保険制度 (4)財政対策 (5)今後の職員体制
岩崎 義弥	1.ゾンビランドサガ特別チームを (1)市とのコラボの現状 (2)特別チーム編成の提案 (3)市長の考え 2.集落支援員で地域人材活用を (1)制度の概要 (2)導入の提案 (3)市長の考え
山口 恭寿	1.障がい者福祉について (1)重度心身障害者医療費助成について (2)対策 現物給付へ 2.災害に強い街づくりについて (1)8月佐賀豪雨災害の被災状況 (2)今後の対策 3.ふるさと納税について (1)現状 (2)対策

議員名	質問事項
坂本 繁憲	1.「道の駅伊万里」の活性化 (1)「ふるさと村」建設の経緯 (2)「ふるさと村」から「道の駅伊万里」への転換 (3)観光客数の推移 (4)市長の考え 2.片耳難聴者への公的支援 (1)国の動向 (2)県の動向 (3)本市の取組み (4)市長の思い 3.道路上の支障木伐採 (1)道路上の支障木の把握 (2)責任の所在 (3)費用負担
盛 泰子	1.市民の安心・安全の確保へ向けて (1)横断歩道の設置 (2)原発事故時の避難先 2.子どもたちの健やかな成長へ向けて (1)障がい児福祉計画 (2)「不登校」と起立性調節障害 3.心豊かな人材の確保へ向けて (1)幼児教育・保育無償化 (2)職員の確保
梶山 太	1.買い物支援(弱者・難民対策)について (1)現在の取り組みについて (2)今後の展開について 2.第3次食育推進基本計画について (1)欠食児童の現状 (2)本市の取り組みについて 3.市の配布物のスリム化について (1)配布物の現状 (2)将来展望
前田 邦幸	1.第6次伊万里市総合計画前期基本計画について (1)現在までの状況 (2)子育て支援充実について (3)医療体制の充実について (4)学校教育の推進について (5)今後の総合計画の進め方
渡邊 英洋	1.道路網整備について (1)現在の取り組み状況 (2)国道204号4.4Km改修 (3)臨港道路の進捗状況 2.公園管理について (1)管理状況 (2)国定公園について 3.進む高齢化社会への対応 (1)現状 (2)2025年問題をどう予測するか (3)更なる健康増進への取り組み
樋渡 雅純	1.色覚バリアフリーの対応 (1)本市の対応状況 (2)防災・各種ハザードマップ等への対応 (3)ガイドラインの作成 2.高齢者肺炎球菌ワクチン接種率の向上について (1)5年間の接種状況 (2)経過措置延長と接種率の向上UP (3)未接種者への再通知 3.学校給食費の公会計化 (1)徴収・管理の現状と背景への認識 (2)徴収・管理に関するガイドライン (3)本市の今後の方向性
前田 久年	1.婚活推進事業について 2.地方創生への対応について

一般質問事項



◆市議会ホームページから一般質問の動画が視聴できます。「伊万里市議会」で検索。
または、左記のQRコードからご覧ください。

交通渋滞の現状と対策について



山口 常人

質問 市内各所での交通渋滞の状況について、どのように把握しているのか、又、今後の対策は。

答弁 建設部長

朝夕の渋滞状況については、承知している。時差式信号や矢印表示等の改善を行っています。未だ課題は有るので、今後も各関係機関と協議したいと思えます。

質問 東八谷棚踏切の改善は。

答弁 建設部長

東八谷棚踏切の信号化は有効的な手段。必要性が出てきた場合には、市としても関係機関へ働きかけをして参ります。

伊万里川の環境整備について

質問 観光伊万里から見た時に、現状をどう考えるのか。

答弁 建設部長

昭和42年の水害を受け河川拡

幅工事がなされ、複断面で整備された。今後は、観光伊万里の資源として、どのような提案を県にできるか検討します。

質問 伊万里川河口部は、土砂が堆積している、浚渫が必要。

答弁 建設部長

本年度は、トンテントンの川落とし場を計画、河口部につきましては、土砂堆積により治水安全上を考慮して、県への要望を行います。

汚水処理の現状と整備方針

質問 汚水処理の現状と合併処理浄化槽の補助額の拡充は。

答弁 上下水道部長

下水道の整備は、現状維持。今後は、市民生活の向上を目指し、合併浄化槽の設置の促進をするための方法を更に検討します。

学校教育の方向性と思

質問 昨年さが維新博で、佐賀の偉人が脚光を浴びた。本市においても郷土を誇りに思い、未来への志を持った子どもたちを育成してほしい、本市学校教育への思い。

答弁 教育長

夢や希望に挑戦し、やさしさとたくましさを持ち、郷土に誇りを持つ子どもの育成を目指します。

市内自治区の見直し統合問題について



笠原 義久

質問 伊万里町の自治区の現状をどの様にとらえているか。

答弁 総務部長

半数以上が30世帯に満たない自治区であり、区長、役員のみならず、手続が成立せず、町の行事にも参加できない。

質問 見直しについて行政は積極的な指導はしないのか。

答弁 総務部長

25年頃までは区長会との意見交換が開催されたが現在はない。区民の総意と区長会からの相談があれば一つ一つの問題をクリアしながら、支援をしたいと考えている。

観光行政の現況について

質問 観光行政の現在の取組みは。

答弁 産業部長

総務省が推奨している、地域おこし、競争力の強化、福岡都市圏からの観光客誘致を三本柱としている。その為にはあらゆる機関を通じて宣伝活動を実行している。

答弁 市長

観光行政を市民に理解をしてもらい、町づくりの観点からも協力をしてほしい。誘客とてなしの心を持ち、交流人口を増やし、伊万里に来て良かったと思われれば、オール伊万里で観光行政に邁進して行きたい。

浦ノ崎廃棄物処理場について

質問 現在の廃棄物処理場をどの様に考えているか。

答弁 建設部長

将来的に伊万里市の活性化に大きく貢献すると考えられるので、工業団地になればと期待している。現在のところ県は具体的に伊万里市に用地化を示していないが、今後とも働きかけをしていく。

質問 伊万里港の立地や造成工事単価を考えるとリスクも生じると考えられるが。

答弁 建設部長

佐賀県との周知な打ち合わせを今後も継続していく予定。

一般質問

一般質問

新しい「道の駅」について



松尾 雅宏

質問 先の議会答弁で道の駅についてはJ・A・観光協会のトップ協議を行い方向付けするとの事だったが協議内容について尋ねる。

答弁 建設部長

協議では西九州自動車道の整備後は福岡都市圏から1時間となり交流人口の拡大を図るには魅力ある施設であるのは一致した意見であった。市としては建設に伴う費用負担や福岡から伊万里までに糸島の伊都菜彩や唐津うまかもん市場もあり、その投資効果を見極めたい。

質問 今回の答弁では、建設や用地取得費の市財政負担を心配されているが、登録要件では駐車場・トイレ・休憩所・道路情報提供施設は用地買収を含め道路管理者が整備するとなっている。残る地域振興施設はJ・Aで設置予定であるので、基本市の財政負担は伴わない

が、なぜ動かないのか。

答弁 市長

実際にどこまでかかるのか、特徴は何か等踏み込んだ検討が必要と考える。基本、市の持ち出しがないという事であれば、国土交通省に確認を取り再考する。

農業関係について

質問 有害鳥獣について、猟友会では処分場に苦慮されており市長も何とかしたいと言われたが対策は打てたか。

答弁 市長

処分施設を県に要望したが難しい。結果、埋設しか方法がない。しかし、同様の要望が他市からもあり、今後ともに強く要望していく。

質問 さが園芸生産888億円推進事業についてもやる気のある農業者には積極的に支援するとの答弁だったが、予算措置は出来たか。

答弁 市長

平成31年度、15事業すべて予算措置を行なった。令和2年度についても厳しい財政状況であるが、県の措置があれば確保していく。

市地域包括支援センターの旧食堂への移設について



西田 晃一郎

質問 旧食堂の利用状況は。

答弁 政策経営部長

平成29年12月末から事業者が撤退後、会議室等としてもほとんど利用実績が無い状況だったので、有効活用の策として移設をする。

質問 移設の経緯と利便性について。

答弁 政策経営部長

高齢化の進展に伴い、長寿社会課や市民課の業務量が増加し、スペースが手狭になってきている。そのため、各課が本来の機能を十分に発揮するためには、移設による改善を図る必要がある。さらには、同じ建物内に健康づくり課を移設し、健康増進に係るフロアとし、保健・医療・介護分野の総合相談のワンストップ化を図り、利便性を向上させる。

質問 バリアフリー化と予算につ

いて。

答弁 政策経営部長

売店入口側ドアの自動ドア化や出入口付近に駐車スペースの確保など、約65万円を見込み改修する。

質問 庁内連携について。

答弁 政策経営部長

移設に伴い、物理的距離が発生するが、他の部署にまたがる相談者が一斉に集まり、ワンストップで対応する。また、子育て支援係が隣接することで、子どもや高齢者等に対する虐待等の相談業務の連携も図れるようになる。

質問 地域共生社会の実現に向けた、相談支援体制の今後のビジョンについて。

答弁 市長

国が示す「断らない相談支援」の実現に向けて、地域を構成する多様な主体との連携が不可欠であり、これを仲介する役割を担う専門職の確保が必要だと感じている。よって、職員体制の強化についても社会福祉士や保健師、保育士等の専門職の採用について検討していく。そして、職員が有している資格や相談業務等に対する積極性や適正を含め配置を検討していく。

一般質問

高齢化社会における
認知症施策について



川田 耕一

質問 認知症患者の推移について。

答弁 市民部長

5年前から比べると、人数では約200人増加し、85歳以上の患者数は1385人と41.5%を占めています。

質問 新オレンジプランの概要は。

答弁 市民部長

平成27年に「認知症高齢者に優しい地域をめざして」策定され、社会全体の理解と普及、啓発に取り組み、予防や治療、介護などの研究開発を進めていくものですが、伊万里市はほとんどの目標を達成し、現在も地域包括支援センターを中心にケアやサポートを行っています。

質問 認知症施策推進大綱の概要。

答弁 市民部長

新オレンジプランをより深めたもので、発症を遅らせ、認知症になっても安心して暮らせる社会を目指し、予防や社会参加支援等に取り組みものです。

本市では高齢者向けのいきいき百歳体操や認知症サポーター養成講座、認知症カフェなど本人やご家族の負担を減らし、地域とともに寄り添えるような取り組みを推進し、周知に努めていきます。

高齢者の交通事故防止
について

質問 伊万里市における交通事故の現状は。

答弁 総務部長

市内でも交通事故件数は減少傾向にありますが、高齢者の事故は年々増えています。

質問 アクセルとブレーキ踏み間違い装置等の装備に対する補助の考えは。

答弁 市長

今のところ、補助をする考えはありません。



保育料無償化について



加藤奈津実

質問 保育事業者からの問合せ及び陳情の内容は。

答弁 市民部長

保護者から園が実費で徴収するようになる副食費の金額設定及び徴収方法、滞納時の対応などの問合せが主。陳情は給食費の無償化や児童手当からの徴収など。

質問 児童手当から副食費を徴収することは可能か。

答弁 市民部長

保護者からの申し出により滞納分を差し引くことはできる。

質問 副食費補助の可能性は。

答弁 市長

今すぐの補助は難しいが、園と十分に連絡を取り情報提供をしながら市としてサポートしていく。10月以降に問題が出てきた場合には再度内容について検討していきたい。

伊万里市の歌について

質問 市が制作に関わった伊万里の歌は。

答弁 教育部長

昭和54年に市政施行25周年に合わせて作られた交響詩伊万里。平成4年に市民の皆さんに気軽に口ずさんでもらえるように作られた伊万里讃歌。

質問 市が公式に認める市歌は。

答弁 教育部長

指定する市の歌はない。

質問 郷土愛を育むために伊万里讃歌を学校教育に取り入れることは可能か。

答弁 教育部長

授業では難しいが、郷土を学ぶ総合的な学習の時間や行事の発表会等で活用することは有意義であると思う。是非家庭でも歌う機会を作ってほしい。

質問 伊万里讃歌を公式な市歌とし、市をあげて永く歌い継いでいくことについて。

答弁 市長

伊万里学のすすめであり、伊万里讃歌が作られた当時の精神は引き継いでいきたい。市歌にするかどうかは市民の皆さんと意見を交わしながら考えていきたいと思う。

一般質問

松浦鉄道について



前田 敏彦

質問 7月に開催された松浦鉄道連絡協議会総会の概要は。

答弁 政策経営部長

国庫補助金の一部不交付等により基金を取り崩し、令和2年度には基金下限としている2億円を割り込む見込みとなったため、11月の臨時総会において、追加負担をどうするかを決定する。

質問 松浦鉄道では様々な利用促進の取り組みが実施されているが、市としてどこまで関与できるか。

答弁 政策経営部長

市長は松浦鉄道の取締役であることから、取締役会において発言できる。今後は利用促進に向けて提案していきたい。

質問 高齢者や体が不自由な方のため、階段しかない駅にスロープを設置できないか。

答弁 政策経営部長

あくまでも松浦鉄道が経営主

体として整備することになっている。今後、松浦鉄道の内部留保資金が増加すれば可能かもしれない。

質問 今後人口減少が推計される中で、地域住民の足である松浦鉄道を維持していくには、更なる利用促進や施設整備を図っていく必要があるのではないかと思うが。

答弁 市長

少子化により定期利用者は減少しているが、一般利用者は増加傾向にある。松浦鉄道の経営改善に向け利用促進を図る提案を行い、地域住民の足を守っていききたい。

河川の管理について

質問 八月豪雨による市が管理する河川の被害状況は。

答弁 建設部長

災害復旧を必要とする河川被害箇所は38か所、被害額約1億円。

質問 災害を少しでも防ぐために、日常の点検・維持管理は。

答弁 建設部長

準用河川については、年2回点検している。地元関係者に維持管理をしてもらっているが、高齢化や後継者不足で浚渫や法面の草刈など要望が増えている。維持管理を充実させるためには十分な予算確保が最重要と認識している。

地方公共団体における内部統制について



松永 孝三

質問 議会選出の監査委員について市長はどのように考えているか。

答弁 市長

急いで結論を出す必要はない。内部統制の取組みなどで、これから監査委員の役割がどのように変わっていくのか、内部統制と議会の関わりはどうなるのかなど、しばらく状況を見守るとともに、検討していきたい。

質問 ★内部統制の整備状況と概要について。

答弁 総務部長

内部統制基本方針を本年2月に策定し、①コンプライアンスの推進に向け組織的に取り組む②財務報告等の信頼性を確保する③リスクの把握、評価、対応策などのリスク管理に取り組むことなど、6項目に基づき、内部統制機能の拡充を図っていくこととしています。

質問 地方公会計制度について、財務書類活用について市長の考え方。

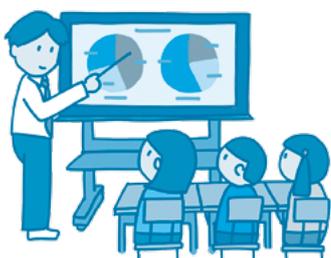
答弁 市長

財務書類から得られる情報も参考にしながら、効率的で効果的な財政運営、さらには政策形成を進めてまいりたいと考えている。

質問 超スマート社会に向けた取り組みについての市長の考え方について。

答弁 市長

本市においても、★ICT技術の活用で効果が高いと認められるものについては、日々研究を怠らず、積極的に取り入れていくための準備を進めていきたいと考えている。また、昨年よりICTに関連する企業の本市への進出が相次いでいることもあり、このような民間の事業者とも連携した「超スマート社会」への的確な対応を図ってきたい。



★内部統制…組織の業務の適正を確保するための体制を構築していく制度。

★ICT(アイシーティー)…情報通信技術。ITとほぼ同じ意味合いを持つ。

会計年度任用職員 へ移行



力武 勝範

質問 地方公務員法及び地方自治法の改正により、令和2年4月から一定要件を満たす非常勤特別職や臨時職員等が会計年度任用職員へ移行され、フルタイムとパートタイムに区分されているが、違いは何か。

答弁 総務部長

諸手当の中の通勤手当や時間外手当・期末手当についてはフルタイム・パートタイムともに支給対象となつているが、地域手当や宿日直手当・退職手当はフルタイム職員のみとなっている。フルタイム職員は給与としての支払いで、正規職員と同じ考え方であるのに対し、パートタイム職員・正規職員より短い勤務時間であることから、これまで通りの報酬としての支払いとして区分されている。

質問 会計年度職員への移行に際し当面パートタイムのみとする

のことであるが、当面とはどのように解するのか。

答弁 総務部長

現在の臨時職員についてはパートタイム扱いとしているため、新制度においてもパートタイムとし、現段階ではフルタイム職員は考えていない。

質問 保育士や看護師等資格を必要とする職員の場合は、現在のようにパートタイムではなくフルタイムを検討することも必要である。次に、財政上の問題として、歳出増加額と、国の財政支援については。

答弁 総務部長

現在の試算においても、財政への影響額として、約1億円の増と試算している。地方財政措置について総務省のマニュアルには、適切に進めていくと示されているが、具体的には示されていない。

質問 今後の職員体制の見直しについて。

答弁 市長

現在の職員体制については、見直しが必要であると考えている。業務の複雑化への対応、毎年のように起きる災害対応、厳しい財政状況ではあるが、最善の方法を考えながら、適切な人員配置を行っていく。

ゾンビランドサガ 特別チームを



岩崎 義弥

質問 佐賀県を舞台としたテレビアニメ「ゾンビランドサガ」の続編制作が決定したが、市も積極的にコラボレーションするべきではないか。また市長直轄の特別チームを作ることはできないか。

答弁 政策経営部長

私も第2期を非常に楽しみにしている。放送後に大きな反響を呼び、アニメを通じた地域経済の活性化に大きく寄与している。特別チームは時宜を得た提案だと思ふが、職員の中には多くのアニメファンもいるようなので、まずは職員のアイデアや意見を集約する機会等を設けたい。どうすれば伊万里の良さを伝えられるのか、人の心が動くのか、新たなステージに向かっているゾンビランドサガのブランド力と、職員の知恵やアイデアを結集させたプロモーションについて、各部署と連携しながら

調査研究を行って参りたい。

答弁 市長

オール伊万里ですべての職員がアンテナを張って、そして市民、事業者の皆さんと一緒にシタイプロモーションに取り組んでいきたい。

集落支援員で地域人材の活用を

質問 制度の概要を。

答弁 政策経営部長

人口減少、高齢化の進展に伴い、生活機能の低下、身近な生活交通手段の不足、空き家や耕作放棄地の増加などの重課題に対応するため、平成20年に設けられた。報酬や集落点検、話し合いなどの経費に選任で年350万円(兼任40万円)を上限に特別交付税措置される。三重県いなべ市に60名、茨城県常陸大宮市に36名、兵庫県養父市に35名、県内では唐津市に7名、基山町に3名、多久市に1名が配置されている。導入のデメリットは特にない。

質問 導入できないか。

答弁 政策経営部長

住民の皆様の意見を伺いながら活用について検討していきたい。

答弁 市長

伊万里に合った制度だと思ふので、ぜひ導入していきたい。

一般質問

一般質問

重度心身障害者医療
費助成制度を現物給
付に！



山口 恭寿

質問 重度心身障害者医療助成費制度の対象者とは。

答弁 市民部長

身体障害者手帳1、2級の方など、目や手足等の機能が著しく失われている方。

質問 毎月の申請件数は。

答弁 市民部長

月平均2500件。

質問 子どもの医療費助成は病院の窓口で完結する現物給付に對して、重度心身障害者の方達が病院の窓口で自己負担分を支払った後に、市役所の窓口まで来て、助成の申請をする償還払いの制度は、おかし。佐世保市等では現物給付で行っており、当市でも進めるべき。

答弁 市民部長

当市だけでは難しく、県などに働きかけていく。

災害に強い街へ

質問 先日8月豪雨では、当市も1時間の降水量が57mmの雨が降った。東京などの大都市では、1時間50mmの降水量に耐えられるよう都市設計をしてあると聞くが伊万里市は。

答弁 建設部長
残念ながら、そのような都市設計は行っていない。

質問 武雄市や佐賀市では1時間に100mmを超す雨が降っている。それを教訓にどのような事を行っていくのか。

答弁 建設部長
防災マップの作成を行っているが、今回の大雨を教訓に再度検討し直す。

ふるさと納税について

質問 平成28年度をピークに寄附額が減少し、県内市町村のランキングが落ちている理由は。

答弁 政策経営部長

総務省の還元率3割の指導で、寄附額が減少し、ランキングはその指導を守らなかった所が伸ばしている。今年度より適正に評価されるはず。

「道の駅伊万里」の
活性化



坂本 繁憲

質問 「道の駅伊万里」への観光客の推移について。

答弁 産業部長

伊万里東府招インター開通によって、開通前の平成29年から開通後の30年にかけて約5万9千人減少している。延伸の影響を大きく受けていると推測される。

質問 観光客誘致のため、谷口インター・出口付近に官民一体となった、誘導看板設置を考えるべきではないか。

答弁 産業部長

市が主体となるものではなく、アドバイザー的な立場として、JAをはじめ国道202号沿いの飲食店等の連帯感を持った、自発的な行動・取組みを促し、フルーツ・物産観光の拠点として「道の駅伊万里」への更なる誘客促進に努めていきたいと考える。

質問 「道の駅伊万里」が本市の

観光客誘致に果たしている役割と今後のあるべき姿について、市長の考えを尋ねる。

答弁 市長

「道の駅伊万里」は福岡都市圏から唐津を経由しての玄関口に位置し、本市の農業振興と観光振興の両面の核であり、重要な施設であると考えており、伊万里市農協と一緒に、より良い施設となるよう引き続き考えていく。

片耳難聴者への公的支援

質問 今後どのような支援をしていくのか市長の思いを尋ねたい。

答弁 市長

難聴などの障害の有無に関わらず、すべての子どもたちとその保護者に対し、適切な教育を受けることができる環境を提供する責務が、地方公共団体にあると考えている。そのため、公的な支援制度については、前向きに検討しなければならぬと考えている。しかしながら、公的な支援を行う以上は、どこかでその対象となる範囲を限定しなければならぬ。まずは、国や県に対し、片耳難聴の方が直面されている生活上での不利益の実態をお伝えし、支援の拡充について声を上げていく必要があると考えている。

起立性調節障害★



盛 泰子

質問 起立性調節障害は、「不登校」の要因ともなる病気で、適切な対応が大事。岡山県のようなガイドラインの策定を県に求めてほしい。

答弁 教育長

30日以上不登校は直近で小学校10人、中学校34人。原因は様々で、この病気に關して教職員での研修も行っているが、スクールカウンセラー等の専門的な指導が益々必要になってくる。県の調査はなされていない。ガイドラインは機会を捉えて提案したい。

児童発達支援センター

質問 市の「障害児福祉計画」に来年度末までのセンター設置が明記されている。現状は。

答弁 市民部長

先進地視察やヒアリングなどを

行い、保健、医療や作業療法士など専門分野等との連携を行いつつ、効果的な手法や課題の抽出から着手する。

幼児教育・保育無償化

質問 副食費の徴収など本来の業務以外の雑務が増えるため、園側が当惑している。制度への問題提起はしつつも、少しでも園の負担が減るようなソフト面の対応を。

答弁 市民部長

「保育体制強化事業」など様々な制度があるので、要望を聞いて紹介、検討していく。

横断歩道の設置

質問 市から県の公安委員会へ要望した横断歩道要望箇所に関して「(設置は)消極的に解する」との意味不明な回答があった。より誠実な対応を求めるべき。

答弁 総務部長

改めて公安委員会に尋ねたら、「設置することにより交通の危険が生じるおそれがある」との回答であった。

字数の関係で2問省略

買い物支援対策



梶山 太

質問 少子高齢社会や人口減少の中で、大きくクローズアップされている、買い物弱者への取り組み。

答弁 市民部長

定期的に栄養バランスのとれた食事の配達を行うとともに、安否などの確認を行っている「配食サービス事業」がある。また、民間事業者も6社取り組まれている。様々なサービスの周知は「高齢者向けサービスの手引き」という情報誌で提供している。

質問 平成30年度の「買い物支援部会」の取り組みは。

答弁 市民部長

市全体を範囲とした第1層協議体の中で、平成30年度に立ち上がっている。事業者と行政との勉強会を3回開催した。今後は、買い物支援を希望される地区と支援事業所との話し合いの場を設けるなどの展開を考えている。

食品ロスへの取り組み

質問 日本の食糧自給率が38%と言われる中、食品ロスへの取り組みと考えるは。

答弁 市長

第3次伊万里市食のまちづくり・食育推進基本計画に基づき、関係機関や団体で構成される食のまちづくり推進会議・推進委員会と連携し、出前講座や市の広報を通じた啓発などを行っている。今後としては、地域での食品ロスの実情等の調査研究を進め、新たな施策事業を展開していきたい。

市の配布物のスリム化

質問 最近、市の配布物が多くなったとの声を聞くが、今後どのように考えるか。

答弁 市長

広報伊万里に掲載する記事自体のスリム化や、全戸配付するものは、原則として広報伊万里には掲載をしない等、いくつかの取り組みが考えられる。今後の展開としてICTの活用や、紙ベースの現物支給とのバランスを取りながら、区長さんの負担軽減に努めていきたい。

一般質問

一般質問

第6次伊万里市総合計画前期基本計画について



前田 邦幸

質問 第5次伊万里市総合計画の振り返りから、施策の目標の達成度について。

答弁 政策経営部長

「活力あふれひとが輝くやすらぎのまち伊万里」の実現に向け、40施策を掲げ具体的に定めて進めてきた。第6次伊万里市総合計画を策定する為、平成29年度に市民アンケート調査を実施し、各担当課ごとに評価したところ、全体の88.6%が順調、またはおおむね順調であり、第5次伊万里市総合計画後期基本計画はおおむね達成している。

質問 子育て支援充実「少子対策」の中で多子世帯学校給食費補助金の対象を第3子に拡充しては。

答弁 教育部長

現状第4子以降、30年度見込み額、61名、228万1780円。第3

子に拡充しますと、約3千万円かかり、財政的に厳しく現行の第4子以降の補助制度を維持する方向である。

質問 学校教育の推進については、小学校の授業をゆとりのある時間にできないか。

答弁 教育長

平成23年度から5・6年生における外国語活動が年間35時間、令和2年度から3・4年生では、外国語活動を年間35時間、5・6年生では外国語科として年間70時間であり、週あたり1時間増える。夏休み期間を減らしたり、土曜日授業を増やしたりして対応していく。

質問 夏休みに対する考え。

答弁 教育長

夏休みは、地域行事や色々な体験により、自己有用感が育まれる期間だと思う。授業時間の確保やエアコン設置で、夏休み期間を短くする考えも有りますが、ゆとりと心や体を休める期間として大切だと思う。

質問 市民会館を廃止すると聞いたが、今後の取り扱いについて。

答弁 総務部長

改修工事に2億円かかるので、廃止の考えで進めて行くが、10月にパブリックコメントを募集する。

進む高齢化社会への対応



渡邊 英洋

質問 高齢化社会の現状は。また6年後に迫った2025年問題をどう予測するか。高齢者の健康増進にどう取り組むのか。

答弁 市民部長

高齢化率は、令和元年9月1日時点で伊万里市人口5万4701人に対し、高齢者数1万6989人である。

団塊世代の生まれの方が75歳になられる2025年には高齢化率は33.8%が予想され、現況よりも2.7%の増加が見込まれる。また総人口に占める75歳以上の人数が18.6%になると予想される。75歳以上の高齢者が増加するに伴い、①高齢者世帯の増加②介護を必要とする高齢者の増加③介護・医療費など社会保障費の増加等が見込まれる。

高齢者の健康増進策としては、平成29年度から取り組んでいる

「いきいき百歳体操」に力を入れていきたい。現在40カ所、991名の方が取り組まれている。

今後の目標としては70カ所、1700名を目指したい。実施団体が順調に増加すると、担当課の職員だけではなく、市民の方の協力が必要になることから、今後サポーターの養成を計画していきたい。

また、特定健康診査受診にも力を入れていきたい。

この特定検診の過去3カ年の実績は、平成28年度が45.9%、29年度が47.1%、30年度が48.7%と年々増加はしているが、国が目標として掲げる60%に比べると低いので、この数値を目標にして取り組みたい。

受診率をアップすることで病気の早期発見、重症化予防を図り、活力ある高齢化社会につなげていきたい。



色覚バリアフリー



樋渡 雅純

質問 この特性を持っている人は日本人男性で20人に一人、女性で500人に一人。全国で約300万人ともいわれる。①色覚障がい者への対応は。②カラーユニバーサルデザインを取り組みも広がっている。国内の地震危険度を示す地図を色弱者に配慮する見直しが始まった。本市のハザードマップ等はどうか。③色使いのチェックポイントを整理してガイドライン作成を。

答弁 市民部長

①市HPや広報誌、案内表示等に配慮してきたが時間も経て意識配慮への懸念を持っていて。③先進地を参考に職員向けに作成したい。

答弁 建設部長

②色使いについては必ずしも配慮したものにはなっていない。

学校給食費の公会計化

質問

文科省の勤務実態調査や

給食費の徴収状況調査で教員の厳しい実態が伺える。中教審では、給食費の公会計が提言され、促す通知もあつていて。

①本市の状況、徴収金額は。②公会計になることの意味は。③公会計での効果や進め方について分析、整理したガイドラインが作成された。業務負担の軽減、保護者の利便性、徴収・管理の効率化についてはどうか。④私会計から公会計に向けた動きが一気に動き出した。教育長の考えは。⑤公会計に向けては財政面、職員配置、関係機関等の調整など課題はあるが、市の考えは。

答弁 教育部長

①学校長が徴収・管理し、食材購入へ一括支払いの私会計で約2億4700万円。②市の歳入で徴収し歳出で食材費として計上。③納付の選択が広がり、債権管理の業務との連携やシステムの活用等期待される。

答弁 教育長

④職員の負担は認識している。児童、生徒に向き合う時間確保につながり実施の意義は大きい。

答弁 市長

⑤給食費に限つての公会計は負担軽減、公平性、透明性で効果はある。課題整理し検討する。

婚活推進事業について



前田 久年

質問 婚活推進事業の今後の展開について。

答弁 市民部長

将来的に人口減少や少子化が進む中、今後人口減少を緩やかにし、地域の活力、活性化を図っていく上で、成婚後に移住、定住される可能性が高く、その後も様々な分野への波及効果が期待出来る婚活推進事業は重要な施策事業の一つであると認識しています。

成婚者の増加につながるよう取り組んでいきたいと考えておりますので、各地区、町からも地域活性化の観点から、婚活事業に対して積極的にご提案いただきたいと思

地方創生の対応について

質問 本市の第2期地方創生の取り組みについて。

答弁 市長

本市において何よりも重点的に取り組むべきは、これからの伊万里市を背負う「ひとづくり」であると思つており、同時に本市を誇りに思つてもらえるような「まちづくり」を進めながら、本市で働きたいと思う人の受け皿となるような「しごとづくり」に取組みます。

行政だけでは限界があるので、あらゆるご縁を最大限に生かし、それら全てで「オール伊万里」の名の下に、これからの伊万里市を創つていきたい。



一般質問

議会運営委員会

前号で報告した取手市議会・所沢市議会の議会改革の取組みを参考にして、今後、どこからどのように取り組んでいくかについての協議を行いました。

また、「市民との約束」である議会基本条例第24条に、改選後「速やかに検証する」と規定していることから、条例内容の検証を実施しました。

そのうち改選後の議員研修については、議長からの指示により講師の人選を進めています。

また、「議会報告会」は、議会からの呼びかけによる実施だけではなく、市民団体からの開催申込みが可能であることのPRが出来ていないとの認識で一致したため、ここでお知らせします。

《伊万里市議会と市民との意見交換会 開催方法》

- 対象：市内に所在する団体(10人以上で構成される団体に限る)で、宗教団体や、議長が適当でないとする団体以外の団体
- 案件：市政に関する事、市議会に関する事、その他必要とする事項
- 申込方法：開催申込書に出席者名簿を添えて、議会事務局へ提出
- お問合せ：議会事務局 ☎0955-23-2594

議会基本条例を制定して2年余りであり、これからスタートする内容が多いのも事実ですが、一つずつ着実に歩みを進めていきたいと考えています。

◎盛 泰子 ○力武 勝範
岩崎 義弥 前田 敏彦 前田 邦幸
山口 恭寿 梶山 太

編集後記



今年、特に自然災害が多かったように感じました。なぜなら、身近な所で甚大な水害が発生したからです。

私は、消防団員として地域を見回り、元社協職員として、県内の市町の災害ボランティアセンターに陣中見舞いに行き情報を集め、全国から集まってくるボランティアの方々に円滑に活動していただけるようにSNSで情報を発信しました。そして、自分自身も大町町でボランティアの方々にかき氷を提供する活動を行いました。

伊万里市は、幸いにも大きな被害が発生せず、日常に戻るまで時間がかかりませんでした。しかし、明日は我が身です。水や食料など十分な備えをしておきましょう。また、これまで盲点だった停電も想定しておきましょう。さらには、もう一つ大切な備えがあります。それは、日ごろからのご近所付き合いです。災害時には、自分の命は自分で守る(自助)

のが大前提です。次に、地域住民で力を合わせる(共助)、最後に市役所や自衛隊など(公助)の支援を受けます。よって、今回の災害をきっかけに、安全で安心して暮らすために、災害に備えたいご近所付き合いを始めてみてはいかがでしょうか。

(西田 晃一郎)



広報広聴委員

◎岩崎 義弥 ○西田晃一郎
坂本 繁憲 加藤奈津実
川田 耕一 山口 常人
山口 恭寿

発行・ご意見

伊万里市議会
伊万里市立花町1355-1
☎0955-23-2594
☎0955-22-1277
E-mail:gikai@city.imari.lg.jp

編集

広報広聴委員会

印刷

山口印刷株式会社